

## 令和元年度第1回徳島県農林水産審議会 議事概要

I 日 時 令和元年8月30日（金）午後2時から午後4時まで

II 会 場 県庁10階 大会議室

III 出席者

【委員】25名中 22名出席

横井川久己男会長，友竹初美副会長，市岡沙織委員，井上妙委員，  
大城幸子委員，大地幸代委員，岡直宏委員，門田誠委員，川真田哲哉委員，  
木元美和委員，榊野千秋委員，佐々木志保委員，島田めぐみ委員，  
島田吉久委員，長久生實委員，徳田悠起委員，長江郁哉委員，野口美保委員，  
久岡佳代委員，森本尚子委員，山根幸二委員，和田智子委員

【県】

農林水産部長 ほか

IV 議 題

- 1 会長及び副会長の選任について
- 2 「徳島県食料・農林水産業・農山漁村基本計画」における  
平成30年度の実施状況について
- 3 「徳島県経済グローバル化対応基本方針」について
- 4 その他

《配付資料》

資料1 委員名簿

資料2 配席図

資料3 徳島県農林水産審議会設置条例

資料4-1 平成30年度徳島県農林水産基本計画レポート（概要版）

資料4-2 平成30年度徳島県農林水産基本計画レポート（全体版）

資料5 徳島県経済グローバル化対応基本方針

参考資料1 2019グラフで見るとくしまの農林水産業

参考資料2 徳島県食料・農林水産業・農山漁村基本計画（概要版）

参考資料3 徳島県食料・農林水産業・農山漁村基本条例

連絡用紙 議題についての御意見・御提案等

V 議事概要

1 会長の選任について

徳島県農林水産審議会設置条例第3条第2項の規定に基づき，互選により  
横井川久己男委員が会長に，友竹初美委員が副会長に就任した。

## 2 「徳島県食料・農林水産業・農山漁村基本計画」における 平成30年度の実施状況について

事務局から資料4により説明がなされ、意見交換が行われた。

<意見交換>

(会長)

それでは、本日の進め方でございますが、基本計画の5つの基本戦略を1つずつ議題としてまいります。初めに皆様から、議題となった基本戦略において、評価できる点、改善すべき点、目標達成に向けて今後取り組んでいくべき点などにつきまして、ご意見、ご提言をお願いいたします。ご意見、ご提言が出尽くしましたら、事務局からご発言をお願いします。その後、次の基本戦略にテーマを移してまいります。時間は午後3時50分までの約80分間を予定しております。基本戦略は5つございますので、1つの基本戦略につき約15分間を予定しております。本日はたくさんの方にご出席いただいておりますので、出来る限り多くの方にお話をさせていただければと思っております。

それでは進めてまいります。基本戦略1「人を育む-次代を担う人材への投資-」につきまして、どなたからでも結構でございますので、ご意見、ご提言をお願いいたします。

(委員)

3番目の「水産業の担い手育成及び確保」という部分なんですけども、私も漁業アカデミーの学生さんにいろいろとお話する機会もあるんですが、毎年人数が減ってきているのでちょっと不安に思っているというところと、卒業して就職したけども辞める人も出てきているということで、定着させる対策をしないとまずいんじゃないかなと。されてるんだと思うんですけども、こういう傾向があるということで、今後何か対策とか新しい取組など考えられてることがあれば教えていただければと思います。

(委員)

県内外の農業系学生をインターンシップとして受け入れているというところで、たくさん的人数、大学・高校を受け入れていらっしゃると思うんですけども、県内外の大学等の内訳と、本県の就職率にどれくらい繋がっているのかをお聞きしたいなと思います。

(委員)

私は1期生で、とくしま林業アカデミーを卒業させてもらったんですけども、就職したあとがやはり一番大事かなと思っています。アカデミーを卒業して、実績を積んで、現場ですぐ使える即戦力と言われて、実際は就職したときに、自分の思っていないような場所に就職したり、理想と現実が違ったというところもあるので、長く就労

できるように支援していくことが必要なと、現場で見えて思いました。

（会長）

ありがとうございました。他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、ご意見いただいたことにつきまして、県から発言、回答をお願いいたします。

（農林水産総合技術支援センター経営推進課）

農業のインターンシップの関係で、ご質問いただいた件につきましてご回答いたします。インターンシップには、県内外の大学から参加頂いております。平成23年から開始しております。これまで、関東の大学では、例えば、県と連携協定を結んでおります明治大学や玉川大学、日本大学等、農学部から来られております。それから関西の大学では、大阪府立大学から来られております。四国では高知大学からも来られておまして、各地区から参加を頂いております。また、インターンシップを契機とした本県での就農ですけれども、学生さんすべての就職の状況をフォローしてるわけではございませんが、これまでも3名の方がインターンシップを契機として本県で就農をされております。

（林業戦略課新次元プロジェクト推進室）

林業アカデミーにつきまして、説明いたします。お二方の委員から、理想と現実の違いというお話がございました。林業アカデミーにつきましては、1年間、座学、現場実習ということで、主に現場実習を中心に進めて研修させていただいております。現場に慣れていただいて、なおかつ後半部分は、各事業体に入って、現場でインターンシップも含めて、現場の人と一緒にいろいろな仕事に携わっていただくよう進めているところでございます。また、県内の林業事業体に全員が就職されておりますが、事業者とのマッチングということで、各経営体、事業者の方に来ていただきまして、研修生との意見交換会を昨年から実施することとしております。また、現場に就職されてからも、アフターアカデミーということで、いろいろな相談窓口を設けまして相談に乗るということで対応させていただきます。

（水産振興課）

漁業アカデミー卒業生をはじめとする新規の漁業就業者の方々の定着に向けた取組についてのご質問を頂戴しました。定着については、まずアカデミーを立ち上げる際から重要な課題として認識してございまして、1年間の研修を通じて、漁業現場に入っていたいただいた方々が、実際の現場で、漁業そのものの技術的などは周りのベテランの方々に支えられながらしっかりと学んでいただけていると思っておりますが、その後の定着に向けて、生活の部分の不安でありますとか、自分たちが行っている漁業以外の水産を取り巻くいろいろな状況についての情報を知りたいという声など、卒業生の方々から多数お聞きしております。県としましては、まずは、今年度「アフターアカデミープログラム」という事業名でございまして、アカデミー卒業生など

を中心としまして、もちろんそれ以外の方も含めて、漁業の現場で学ぶこと以外の部分、例えば、流通、販売に係る、川下のほうの情報、こういったものの先進の情報に触れていただく機会を創出するような事業に取り組んでまいりたいと考えております。また、漁業の初期の段階、一番の問題は経費が非常にかかるという部分、漁船の購入でありますとか、漁具の購入など様々経費がかかる中で、本日もご出席頂いております徳島県漁連様を中心に、国の事業を活用しまして、昨年度より、漁船を入手する制度がスタートしてございます。こういった制度も十分活用しながら、今年度また制度も新たなものが加わってまいります、引き続き、新規の就業者の方々の生活支援、あるいは、技術的、あるいは知識の部分、こういったものをフォローしてまいりたいと考えております。

（会長）

ありがとうございました。今の回答を頂きましたが、最後に時間がもし余りましたら、また改めてご意見を伺いたいと思っておりますし、もし時間がないようでしたら、資料の中にはご意見を頂く用紙が入っておりますので、そちらの方に記載していただければと思います。議事としては次の基本戦略に移らせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。それでは続きまして、基本戦略2「生産を増やす-市場ニーズや地域特性に応じた生産振興-」につきまして、ご意見、ご提言をお願いいたします。

（委員）

基本戦略2の資料4-2の13ページの「畜産業の振興」です。総合的な指導の実施にあたると思うんですが。まず、特にアニマルウェルフェア、動物福祉の問題でございまして、世界的に今、流通の業界、飲食の業界、様々な業界で話題になっておりまして。特に、欧州あたりはいろいろな、飼育の方法とか、制定がなされているようですが、特にアジアは非常に関心度が薄いということで、何かの折に、やはりこれをもう少しみんなで共有する必要がある。特に、関東方面の生産者におきましては、エンリッチドケージといいますか、動物アニマルウェルフェアに対応したような鶏舎が随分構築されて、どんどん増やされております。今、飲食にしても、流通のスーパーマーケットにしても、例えば、ウォルマートとかセブンイレブンであるとか、マクドナルド、スターバックス、ホテルではヒルトン、ハイアット、こういったような日本にチェーン展開をしていっている業界は、アニマルウェルフェアの対応の商品を欲しがってるわけで、関東では既にかなり進んでおりますが、関西の方は非常に関心度が低い。ですから、何か置いていかれるような感じがするんで、何かの折に、業界だけではなく行政も含めて議題に乗せていただきたい。日本養鶏協会と国際養鶏協議会、日本養鶏協会の中であるんですが、国際養鶏協議会っていうのは、世界と日本の養鶏はどうあるべきか、アニマルウェルフェアが日本の食文化とか生活に合うかとか、生産者が対応できるかを探りながら、日本式のアニマルウェルフェアの策定の実施に向けて活動している協議会であります。日本型の、我々地方の生産者、小規模な生産者でも、ある程度対応できるようなところで落ち着いて、消費者も納得してという部分の

共有化を図るには、何かの折に是非そういったような議題を取り上げて、あるいは農水省からの情報がありましたら我々の方にもご指導いただきたいと、このように思っています。

（委員）

計画レポート全体版の18ページにあります「(3)の内水面漁業・養殖業の振興」の「養殖業」のところでございます。最近、藻類養殖において、色落ち対策が大変重要な課題となってきているんですけども、水温や、栄養塩濃度などの情報発信を県もしていただいているんですけども、それとあわせて、養殖期間中に下水処理施設において管理運転の実施をしていただいておりますけども、目に見えては成果がないのかなと思っております。そこで、県と致しましては、色落ち対策を何かお考えだったら教えていただきたいと思っております。

（委員）

基本戦略2の5番目の「水産業の振興」の中の「(6)藻場の造成」についてなんですけど、あわびなどですね、魚はもちろんのことなんですけども、藻場が必要となる魚とかあわびがなかなか取れないという漁師さんからの悲鳴を聞いております。こういった藻場を造成していただいて、今後どのようにしていくのか、非常に明るく捉えておりました、こういった試みをしていただくことは非常にありがたいと思っております。どのような現在の状況になっているのかということをお教えいただけませんか。

（会長）

ありがとうございました。他の皆さんいかがでしょうか。もし他のご意見がないようでしたら、県の方から回答して頂きますが、よろしいですか。それでは県の方から回答をよろしくお願いします。

（畜産振興課）

アニマルウェルフェアの啓蒙等についてというご質問でございます。対農家への普及啓蒙と、対消費者への普及啓蒙、二つに分けさせていただきます。まず、対農家につきまして、私どもは日頃から、県の関係機関から家畜衛生の管理基準等の指導をしております。その中で、最近、東京オリパラ等に向けて、JGAP、農業生産工程の管理ということで、そういう基準を推奨しているところでございまして、輸出促進等をやっております。その中で、動物の福祉という点につきましては、快適性に配慮した家畜の飼養管理と定義されており、当然のことながら、家畜の生産性と食の安全性を追求するためにも、アニマルウェルフェアは必要だということで、我々も推進指導をしているところでございます。更なる指導ということで強化してまいりたいと考えております。併せまして、先ほどの、消費者の皆さん方の理解度を上げるということでございます。国につきましては、消費者や流通業者等への啓蒙といたしまして、

例えば農水省内でございますと、消費者の部屋というようなホームページや、省内にコーナーを配置しているようでございまして、そういうところで啓発していると。また地方等では、先ほども申しましたGAPのパートナー会を各地区で行っており、毎年度会議等で啓発していると承知しております。本県におきましても、同じような形で啓発をしてまいりたい、例えば県の養鶏協会では、卵の料理教室やいろいろなイベント等を開催しております。そのような講習会等の機会をとらえまして、消費者の皆様方へのご理解と普及啓発を図ってまいりたいと考えております。

（水産振興課）

水産関係について二点ご質問いただきました。まず、わかめなどの海藻類の養殖に係る色落ち対策についての今後の取組の考えということで、ご質問を頂戴しております。ご紹介いただきましたとおり、現在、水産研究課を中心としまして、漁場における水の状況を随時調査して漁業者の皆様へ情報提供するという体制を取ってございまして、生産時期である秋から春にかけての毎週、県内沿岸の36カ所におきまして、採水しまして、その結果をご報告するという形で、栄養塩の動きや水温の動きといったものの情報をお伝えしているところでございます。今後の取組と致しましては、スマート水産業の導入という方向性の中で、今般、例えば吉野川の河口のスジアオノリの養殖漁場につきましては、これらのデータを自動観測できる機械を養殖いかだなどに設置しまして、漁業関係者の皆様が一時的にスマホ等を通じて情報を入手いただけるようなシステムを構築することを検討させて頂いております。また、わかめにつきましては、今、徳島県の水産研究課では、日本全国でも有数のわかめのサンプル、日本中のサンプル、県内はもちろん国内の様々な場所のわかめのサンプルを持っておりまして、これらを用いまして、色調の優れたわかめの新品種の作出に取り組んでおります。この流れとしましては、色落ちに強い品種、こういったものも、いろいろな掛け合わせの中で生み出せるのではないかとということで、現在チャレンジを始めているところでございます。引き続きご支援のほどをよろしくお願い致します。

もう一点は、藻場の造成の現状等についてのご質問でございます。まずは、藻場の造成につきましては、基盤整備ということで、公共の工事の中で、自然の岩礁、いわゆる地球温暖化ということで、磯やけが進行しておりまして、特に牟岐を始め、県南の方では、磯の海藻が枯れてしまう、なくなってしまうという状況が続いております。水温等いかんともしがたい部分はございますが、ただ、海藻はあるところにはまだ生えていると、全くなくなっているわけではないということで、これらは自然の海水の中にどんどん種を、時期が来れば放出しております。これらが無事に育つような環境を作るための藻場造成ということで、現在の工法としましては、岩礁帯の近くの砂地のところに新たに自然石を置きまして、こちらを藻類の着定基質として、くつつくための土台として、造成するという工事に取り組んでいるところでございます。随時、北部の方から進んでおりまして、今現在、県南の方での事業展開をしているところでございます。今後、こういったところで新たに造成された藻場で無事に海藻がしっかり育つように、初期の段階で、例えば一般に言われております、食害、魚により小さな

芽の段階で食べられてしまう、あるいはウニによって食べられてしまうといったと問題点もございますので、現場漁業者の皆様との協力も得ながら、水産研究課を中心としまして、それらの外敵の対策などとセットでしっかりと取組を進めてまいりたいと考えております。

（会長）

先ほどありました、アニマルウェルフェアなんですが、もう一つの情報としまして、現在、徳島大学と徳島県とミヤリサン製菓の協定によりまして、徳島大学の石井農場に環境福祉型豚舎の建設を予定しておりまして、今後、アニマルウェルフェアにつきましても、大学からも、県やミヤリサン製菓と連携しながら、情報発信してまいりたいと思っております。

この、海藻に関して、〇〇委員はご専門としますので、もし、ご意見ありましたら。

（委員）

□□委員がおっしゃっているのは、クロノリの色落ちでしょうか。以前は、この会議でも高温耐性のノリの作出をやっていくという話もあったかと思えますけれども、多分、現場レベルでできる対策としては、光が必ず色素には影響してまして、暗いと色素を増やします。例えば水深を若干下げるとか、現場でどのくらいできるか分からないですけども、色を上げる方法っていうのは現場でもできる方法がまだあるんじゃないかと私は考えています。一方で、品種というところもしっかりやっていく必要があると思えます。

（会長）

ありがとうございました。それでは続きまして、基本戦略3「マーケットを拓く-需要拡大に向けた販売力強化-」につきまして、ご意見、ご提言をお願いいたします。

（委員）

県産木材住宅の輸出の戸数の件なんですけども、計画レポート全体版の31ページに載ってますが、平成30年度では14戸となっております。昨年度から、県産材と技術者とを合わせた、まるごと輸出ですか、そういった推進もしているというように聞いたんですけども、成果としてはどうだったか教えていただきたいと思えます。

（委員）

私どもは徳島県の素材を使った加工品を作っているメーカーでして、フレッシュなままで召し上がっていただく一次産品と、それを長期間保存できる加工品と、同じブランドを共有しながらともにPRしていく共同体だと思っております。そういう中では、3番目の「海外展開の促進」に書いていただいているような、6次産業の海外展開も含め一緒にPRをしたり、特に海外については、一次産品であるなると金時を中心と

したものなど、先にブランド化していることで、ブランド化の流れに乗ってその加工品として非常に提案しやすい部分がありますので、この辺については引き続きお願いできればと考えております。また、最近感じていることは、加工品として最近、新表示法が今まさに過渡期を迎えておりまして、今後、栄養成分の表示義務であったり、一番大きな、製造者の表示が義務化になるというところで、今までは最終製品を県外で作ってる県内で作ってる中間製品をどうしているというところは、一般の消費者さんに分からない部分があったんですが、今後はすべて表示されていきます。ですので、徳島県のように、一次産品をたくさん持っている県にあるメーカーとしては、最終製品までしっかり徳島県で作っていると、付加価値の部分を伝えていけるようになればいいなと感じております。で、同じような観点から、私ども、全国だったり海外だったり行く上で、すごくいろんな戦いがあるんですが、唯一独自性っていうのがすごくPRしやすい部分です。その中では、徳島県のご協力も頂いてるハラル認証ですか、SDGsとかですごく話題になっているエンカルの部分ですね、まだまだ他県で取得している商品が少ないということで、すごく優位にPRを進めることができているので、認証取得している人たち同士の連携をより強めながら、もう少し、面としてのPRを行っていただけたいなと感じております。

（委員）

販売者としての観点からなんですけれども、6次産業化の商品で出てきたものに関しまして、なんと金時のおさつチップスというものがございました。私もお菓子のバイヤーをしていたんですけれども、おさつチップス、芋せんべいと、芋けんぴとは、10対1で全く売れ方が違っております。ですから、せっかく良い原料を使って加工をしても、お客様が手に取っていただける、買っていただける方の商品ではなくて、ニッチな方向に行ってるというようなことなので、なかなか拡販も難しいと思っておりました。それと、レンコンのレンコンパウダーが瞬間的に話題になったことがございます。テレビで話題になった時というのはだいたい一ヶ月が勝負で、すぐに手配ができて一週間以内に店頭で並べると、弊社どもも儲かることができるんですけれども、レンコンパウダーが全く手に入らなかった。レンコンといいましたが、徳島の産品であります。いざというときに出てこないのが徳島県の商品だなという。いつもちょっともどかしい、せっかくいいものもあるのに、この機動力っていうものがあればもっと良かったのになと思うことが多々ありまして。もったいないなというのはいつも思っております。それから、ブランドの空飛ぶしらす。せっかく首都圏の方に出されているんですけれども、空輸で直送されているということで、首都圏、なかなか苦戦されていらっしゃるのではないのかなと予測をしているんですが、実は弊社、大産地である北海道の方なんですけれども、あえて旬の時期が違う、それと端境期、そういう商品が少ない時に応援を求められたことがあります。それが魚だったんですけれども、そちらに商品を送って大変喜ばれたということもありますので、空輸で直送便のある、例えば札幌や福岡にチャレンジをしても面白いのではないかなと思っております。

（会長）

ありがとうございました。他の委員の皆さん、ご意見はいかがでしょうか。よろしいですか。それでは、県から回答をお願いします。

（もうかるブランド推進課）

さきほど空飛ぶしらすについて、新たに九州とか北海道の方にもと、物流の関係でご提言を頂いております。空飛ぶしらすにつきましては、昨年の11月から輸送を開始しております。今年度で申し上げますと、5月期には83トンを送るなど非常に多く飛んでいるという状況になっております。物流といいますのは、色々課題もあるところございまして、現在も県におきまして、県内物流の課題を解決する部分と、首都圏、羽田空港に着いてからの物流であるとか、先ほどご提言のありました東北、北海道の方への物流をどういうふうに進めていくかというような実証事業も、今現在検討しているところございまして、今いただいたご意見につきましては、今後の施策の参考にさせていただきたいと考えております。

（もうかるブランド推進課輸出・六次化推進室）

加工品の輸出につきましてご意見いただきました。今、輸出につきましては、もともとは平成25年に輸出の室を作りまして取り組んだ結果、今現在、1.1億円だった輸出の金額は12.9億円ということで、約13倍まで増えてきてるところでございます。今、中心で輸出しているのは、なると金時等の生鮮食料品をアジア向けに、そして、ゆず、すだち、ゆこうといった香酸柑橘をEU向けに輸出をしておりますけれども、今中心となっているなると金時はアジア向けにもともと15トンだったものが今現在178トンということで、生鮮品は非常に伸びてきてございますので、先ほどお話がありましたとおり、今後は、この生鮮品とともに加工品につきましてもしっかりと取り組んでいけるように努めていきたいと考えてございます。

また、ハラル認証につきましてのご意見もいただきました。ハラル認証につきましても、平成26年度から県の方で支援をしております。今現在は20事業者の方々が147品目まで取組を進めていただいているところでございます。認証は増えていますが、これからは認証の取れた商品をいかにして売っていくかということで、今現在、事業者の方と組んで、航空会社の方に採用できないかとかという取組をしておりますし、あるいはドバイの方の商談会に出展しまして、そこで採用いただくとかいう形で取組をしておりますので、今後は、認証された商品をしっかりと売っていくように努めていきたいと考えてございます。

また、6次産業化の商品について、しっかりと早く売っていくべきだというご質問をいただきました。先ほどおっしゃっていただいたように、芋せんべいであったり、レンコンパウダーであったり、最近当たっているような商品がございますので、できるだけ早期に商品化していけるように、研修会等を通じましてしっかりと支援をしてきたいと考えています。

（林業戦略課新次元プロジェクト推進室）

海外へのまるごと輸出の取組のご質問がございました。県では、平成22年頃から、スギやヒノキの丸太を海外へ輸出することから始めまして、丸太から、付加価値の高い製品、またその製品だけでなく、徳島の古くからの木工や家具といった高い加工技術を活かしまして、近年、家具や内装も含め、また大工さんも一緒に行って、その家に合うようなもの、県産材を使った施設を作るということで、まるごと輸出ということで取組を始めております。現在は、人を知って、こちらの人といろいろな交流を行うという段階から始めてございまして、昨年5棟ぐらい、台湾を中心にまるごと輸出ということで、本格的に始まろうとしているところでございます。海外には、台湾、韓国、シンガポールに、県産材のショールームも作っておりますので、そういうところでの県産材の魅力の発信を含めまして、今後ともしっかりと取組を進めてまいりたいと考えております。

（会長）

ありがとうございます。ちょっと聞き逃したのかもしれませんが、海外展開のところで、生鮮食料品の伸び方が非常に大きく、なると金時は、十数トンが178トンとかという話だったのでしょうか。

（もうかるブランド推進課輸出・六次化推進室）

15トンだったものが現在178トンまでいっているということで、その生鮮品に合わせて加工品も一緒にPRしていきたいと考えております。

（会長）

ハラル認証されているという◇◇委員さんからのお話ですが、ハラル認証されているものは徳島からはかなり有利に展開できるというような状況をお話されたと思うんですけども、加工食品でのお話ではなかったんですか。

（委員）

私が知っている部分は加工食品なんですけど、たぶんニーズとしては加工食品だけに限らず一次産品ですとかお肉とかも、同じように需要があると思います。というのも、いろいろPRする時に、各県様、私たちもメーカーごとに良さっていうのは当然PRして、それぞれいいところがあるんですけども、ハラルっていうのは信仰の問題で認証がないと食べられない方がいるんですよ。初めの、取得した頃はまだまだでしたが、最近はずごくお客様からもニーズが高く、他県はまだ認証取得商品が少ないので、そういう意味ではすごくPRしやすく思っております。ぜひそのまま、県の特徴を出していただいてというふうに思います。

（会長）

それでは、続きまして、基本戦略4「生産を支える-強靱な生産基盤の整備-」とい

うことで、ご意見、ご提言をお願いいたします。

（委員）

2番目に「林業生産基盤の整備及び保全」というのがありますが、今年からスマート林業プロジェクトが始まっています。現場の方としてはもちろん、木材の増産、人材育成、コストダウンというようなことが求められるわけですが、道というのは、そのどれをとっても非常に大きな力を発揮すると思います。これは昔から言われていることで、今更ということもあるかも知れませんが、この3つ、林道と、林業専用道、そして、林業作業道と書いてありますが、やはり林道が一番大切だと思います。林業専用道という名前は非常にいいような名前なんですけど、私の地域ではほとんどこれは規格の問題でこの予算は使えないということもありますので、やはり元になる林道をもっと力を入れてやっていかなければいけないと思います。それによって、増産なり人材育成なりいろんなことに取り組むことが非常にやりやすくなっていくし、コストダウンにももちろんなってきます。スマート林業プロジェクトの大きな目標が出ていますが、我々としてもそれに貢献していくためには、やはり道というのは非常に大事なんで、考えていただきたいと思います。今、林業のことを考えてみると、一番ありがたいと思うのはやはり木材価格が上がること、それと道ができることです。木材価格は平成の時代に6割ぐらいは安くなっているんで、これが上がるなどということは誰も期待はしておりませんが、道は、コストダウンできる、山の所有者の手取りが増えるとか、そういうことにも直接つながってくるもんですから、ぜひもっと、作業道とかいうのでなく林道に力を入れてもらいたいと思います。

（委員）

全体版の42ページになるんですけども、「(2)藻場造成や掃海による漁場整備の推進」の、「浮魚礁」の設置なんですけども、海部沖に設置していただいた4基の中層型の浮魚礁は、昨年カツオが多く付いたということで、効果が認められたと聞いているんですけど、今後、造成の検討なんかはあるのかを教えてくださいたいのが一点と、それから先ほどの下の「掃海による漁場環境整備の保全の取組」ということで、海ゴミの対策に関連いたしまして、掃海支援と書いていただいているんですけども、具体的にはどういうことを考えられているのかということをお教えくださいたいんですけども。漁業者の場合、ほとんど漁業者の責任でないゴミ、海底ゴミ等が台風で流れてきますが、それは現在は、漁業者が取ってきて港にあげてということをやっているんですけども、少なくとも持ち帰ったゴミを一時的に保管するようなゴミステーション、このような設置について、漁港、港湾の管理者としてどのように考えていただけるのかなという。この二点お聞きしたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

（会長）

ありがとうございました。他の委員の皆様からはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、県から回答をお願いします。

（生産基盤課）

二点、質問いただいております。まず、中層型浮魚礁につきましては、カツオ、マグロ等の回遊魚の性質を利用いたしまして、水深10メートルから50メートル付近に施設を設置することで、その周辺に魚を寄せて効率的に漁獲できるようにするための施設でございます。海部沖の4基の中層型浮魚礁につきましては、平成29年度に本県に初めて設置されまして、供用を開始をいたしました。その後、その施設の効果について調査いたしましたところ、平成30年10月11日につきましては、その周辺におきまして過去3年間の同時期の十数倍のカツオの漁獲があったとの報告を受けております。今後も引き続きまして、数年間、カツオ以外の魚も含めて検証をするとともに、施設の効果が認められるようであれば、関係者に意見を聞きながら、増設も視野に検討してまいりたいと考えております。

続きまして、海に堆積したゴミ対策の掃海支援につきましては、県は国の補助事業を活用いたしまして、関係市町と共に、漁業者の掃海に要した、船の料金とか、人件費、ゴミの処理費用についての支援を行っております。また、ご提案いただいております、ゴミステーションの設置につきましては、海ゴミ削減に向けた新しい取組ということでご意見いただきまして、これまでの補助事業で設置した事例がないことから、今後も関係者と検討してまいりたいと考えております。

（森林整備課）

林内路網の整備につきましては、森林資源が充実した区域におきまして、路網ネットワークを形成するため、基幹林道に加え、支線の林業専用道、林業作業道をバランスよく整備し、木材生産コストの低減による木材生産量の増大を図るものでございます。平成30年度末の林道延長は1,849メートルでございまして、公道と林道を合わせました林内道路密度は、1ヘクタールあたり目標の20メートルに対しまして16.1メートルとなっております。今後とも、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理の実現に向けまして、木材の安定供給を効果的、効率的に行う幹線となる林道の整備を強力に推進してまいります。

（会長）

ありがとうございます。ご質問のあったゴミステーションの設置については、検討中ということだったのでしょうか。

（生産基盤課）

ゴミステーションにつきましては、先ほどもあったんですけども、海ゴミ削減に向けた新しい取組であることから、これまで補助事業で設置した例もございません。今後関係者と検討してまいりたいと思っております。

（会長）

これまで例がないってことですか。

皆様のご協力で、順調に、議題が進んでまいったわけですが、残りの5番目のところが残っているんですけども、少し時間的には余裕がありますので、今までのところでももし何か追加で何かご質問等ご提言がありましたらと思えますが。あるいは、県からいただいた回答に対する質問でも構わないと思えますけど。

（委員）

基本戦略5の3番目に、「中山間地域等への支援」というのがあります。ここにワークショップの写真が出ているんですが、私の地域でもワークショップをやりました。県にご協力いただいて、29年度なんですけど、半年以上かけてやりました。その結果いろいろ意見が出たのを、30年度に、補助金を頂いていろんな事を地域でやってみました。やってみて、これも非常に良かったと思ってます。若い人がいないので、30代が一人、あとはもう50代、60代、70代の人が集まってきてやったんですけど、文理大の学生にもご協力いただいたりして、ワークショップをしました。やってみて、私のところはゆずやケイトウや米やいろんなものを作っているんですが、一緒の地域に住んでいても、女と男でだいぶ考えが違っていたりということが分かったりして、いろんな発見もあったりして非常によかったと思ってますんで、これを是非もっともっと県の方でどんどん進めていってやってもらえたらと思えます。とにかく、私のところも高齢者ばかりの地域なんですけど、地域に住んでいる人間が一番真剣に考えないといかんと思えますので、そういうきっかけになると思えます。

（会長）

ありがとうございます。次の基本戦略5の「地域を守る-活力と魅力に溢れた農山漁村の創出-」の中のご意見として頂戴いたしました。基本戦略5につきまして、続きまして、他の委員の皆様からご意見ございましたらお願いします。

（委員）

基本戦略5の1番目の「多様な主体による協働活動と農林水産業への参画」についてなんですけれども。農業をしようとして入ってこられる方が、農業をすごく簡単に考えられて、来ても雇用の期間が短かったりとかそういうのがすごくあって、とても簡単に、このぐらいだったらできるだろうというような感覚で就農される方がおいでなんですけれども、こういう協働活動を通じて、小学校の低学年の時から、農業の楽しさであったり苦労のようなものを、いろいろな活動を通じて体験してほしいというのがあります。

（委員）

漁業関係なので漁業のことをお話しなければいけないかなとは思ったんですけども、ほとんど□□委員さんから言っていたいただきましたので、私の方からは余談になる

んですけれども、経験したことと、他からの意見を聞いた事を皆さんに聞いていただきたいなと思ってお話しさせていただきました。東京にあるターンテーブル、1年半前ぐらいに運営に着手されたと思うんですけれども。こういう会に座らせていただいて、ターンテーブルを作ったということを知る機会が出来まして、興味を持って、東京に行った際にちょっと行きたいと、東京に住んでいる先輩と一緒に行ってみたんです。タイミング悪く、土日月の3連休中の真ん中の日、半年くらい前の2月の3連休だったんですけれども、真ん中の日なのに関わらず、夜に行ったら2階のレストランが閉まっています、宿泊の人が2、3人ちらほらと座っていると。じゃあ、ここまで来たからビールでもということで、ビールを一杯頼んだら、「おつまみもちょっとないんです。上のレストランが閉まっているもので」ということで、私が行ったタイミングが悪かったんかもしれないけれども、ビール一杯と。そしたらいい感じのいい青年がいて、「ちょっと作ります」と言ってくれて、「残りものですけどすいません」ということで、レンコンの美味しいおつまみいただいたんですけれども、もう本当に25分ぐらい滞在するような形でそこを後にしたんです。そしたら、20メートルぐらい離れているところで、熊本の産地のものを出すような居酒屋がありまして、そこは大繁盛してありまして。馬刺しを食べたいと言って先輩と一緒に入ろうとしたんですけれども、そこにはもういっぱい入れず、「これは徳島負けてしもうた」ということで、先輩ととぼとぼと帰ってきたんですけれども。私としては、徳島の方々が一生懸命考えて運営しているところ、民間に委託はしているとはいえ、情報発信の場ということで、一生懸命考えられて作ってあるところなので、「これからですよ、この施設は。先輩」みたいな感じでフォローはしてたんですけれども。その先輩曰く、この施設は誰を相手にしているのか、この施設のコンセプトがちょっと分かりにくいなど。おしゃれな感じではしているけれども、これは誰を相手にしているんだろうっていうのが正直な気持ちということで、外から見た率直な意見はそうだったのかなという感じで帰ってまいりました。せっかく作った施設ですので、もっともっと良い方向で活用していただけたらなと思います。

（会長）

確かに、対象となる方によって営業時間も変わってくると思いますし、こういった品揃えをするかということも変わってくると思います。ありがとうございます。他の委員の皆さんはいかがでしょう。

（委員）

ターンテーブルのお話が出たんですけど、概要版の4ページの「マーケットを拓く」というところ、その一つ目の「とくしまブランドの展開」のターンテーブルの話の下に、2台のPR車両の活用というものがあるんですけど、これはどこを走ってる車なんですか。県外なのか、県内なのか。私、実家が広島で、広島に行ったら「とくし丸」が目の前を通ったんですね。「とくし丸」って、私、広島で「徳島」という言葉を見たのが初めてだったんですね。だから、車がそういうアピールをもしているとい

うところがあるんですよ。なので、ブランドの展開というところとちょっと違うと思うんですけど、徳島の会社ということもあると思うんですけど、中の物品をいろんな地方に届けて利用していただいているということで全国にあるんですね。広島にあると思わなかった、徳島県だけのものかとちょっと勘違いしてたんですけど、それが全国展開されているっていうのをこの前初めて知って、これってPRのツールに十分なるんじゃないかと思った次第です。

（会長）

今いただいたターンテーブル等のご意見につきましては、また後で、ということとさせていただきます。基本戦略5につきましては、他の皆さんはご意見等はよろしいでしょうか。

（委員）

2番目の「移住・定住の促進」のところなんですけれども、空き家判定士の資格も取っております、ごくごくたまに空き家調査をいたします。それから、ちょっと前に戻りますけれども、基本戦略2の「林業及び木材産業の振興」で、とくしま木づかいプラザにおける建築相談の実施というところでも協力させていただいてるんですけども、ごくたまに県外の方から、移住の相談、空き家や中古住宅についてのご相談、質問というのを受けることがございますが、県内の方からも都市部から地方、里山の方についていうご希望の方もいらっしゃいます。そういう時に、空き家バンクと、空き家バンクは市町村主導でやられてると思うんですけども、ご紹介するんですが、やはり非常に物件が少ないっていうのと、市町村によって取組の熱意が全く違う、人材の問題もあるでしょうけれども、取り組んでないところも非常に多くてですね。物件自体がなくて、選ぶより前の段階であるという話をよく耳にします。少しずつ物件が増えてると思いますけれども、こういう移住とか定住の時っていうのはどうしても、住居っていうのが一番大事な問題になると思うんですけども、県としての取組というのを今、活気づけるような対策というものは取られているのかをお聞きしたいと思います。

（会長）

ありがとうございました。他に、基本戦略5に関しまして、いかがでしょうか。よろしいですか。それでは基本戦略5につきましては、県の方から回答をお願いします。

（農山漁村振興課）

中山間地域でのワークショップによる地域のビジョンの作成のことについてお話がございました。中山間地域では、それぞれの地域が持つ魅力とか価値というのをさらに向上させて発信する、ということが課題になっていると考えているところでございます。その課題解決のために、地域における住民主体の課題解決力の向上を図っていくということで、具体的には、アドバイザー、講師を地域に派遣いたしまして、そ

ここで皆さんでお話しただいて、魅力を再確認していただくと。また、今まで地域の皆さんがお気づきにならなかったようなことを、外部アドバイザーの方からご提案ただいて、地域でまた再認識していただくということも今進めているところでございます。毎年3件ほど進めておりまして、今後も引き続いて進めていくつもりでおりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

また、多様な主体による協働活動、農林水産業への参画ということで、小学校と地域住民による協働活動を通じて、小さい時から農作業に触れておくということが大切だというお話をいただきました。私どもで現在取り組んでおりますのは、田んぼの学校ということで、環境学習の一環として開催しているところでございます。県内5つの小学校で、生徒に農業用水路であるとか田んぼであるとか、それから畦とかに、どのような生物が生息しているかということで、毎年、環境調査を行っているところでございます。今、お話のありました農業への体験についても、今後の農業をこれから進めていく上でも重要なものだと、小学校低学年から触れていただくということは大切だと考えておりますので、今後はそのようなことについても検討していきたいと思っ

（農林水産政策課）

基本戦略5の「都市農村交流の移住・定住の促進」の中で、空き家対策につきましてご意見を頂いたところでございます。大変申し訳ないんですけども、空き家対策につきましては、所管が別になっておりまして、改めまして、別途状況をお伺いしまして、ご報告させていただけたらと思ひます。

（委員）

農林水産業に新たに就業する方の住居が必要になってくるかと思うんですけども、そういう点で、協議しながら一緒に進めるというようなことはされてないでしょうか。空き家対策は別の課がされているのは存じ上げてるんですけども。

（農林水産政策課）

今おっしゃられたように、移住ということで、市町村の方に、他県から、もしくは県内の移住ということで、就農などを含めて移住されるということはあろうかと思ひます。例えば、農地が必要であり、あわせて空き家を活用したいという場合には、通常、農地法等でいくら以上の面積がないと農地を購入できないということもあり、市町村の方でも農地を購入する最低の基準等ありますので、市町村と協議しながら、農地付きの空き家を購入したいということについてやりとりをすることがあると思うんですが、直接当部の方で空き家を活用するといったところはないので、今後、政策創造部等と連携しまして、そういったところを何かできないか検討してまいりたいと思っ

（会長）

今、基本戦略5についてのご意見等をお伺いしてその回答が県からあったわけですが、基本戦略1から5の提言ということで、ターンテーブル等についてご意見いただいておりますので、その件についての回答を県の方からお願いしたいと思います。

（もうかるブランド推進課）

ターンテーブルについてご意見を頂いております。2月の三連休の真ん中で、せっかく行っていただいたときにお休みだったということで、日曜日が休みになっておりますので、その絡みでもしかしたらその日と合致したのかなというふうに思います。それで、ターンテーブルにつきましては、平成30年の2月にオープンし、昨年度は、首都圏の多くの皆様に施設を認知していただくことや、施設が提供する県産食材のこだわりというものを、徳島や施設そのもののブランド力を高めるというところに注力したところがございます。その結果、イベント等では3万人以上の方にご参加、ご利用いただくなど、施設のブランディングや徳島の情報発信といった面では一定の成果があったと考えております。ただ、先ほどお話がありましたように、飲食といった部門ではなかなか、おつまみみたいなものもなかったというようなお話もございまして、色々と課題がございます。今、ターンテーブルリニューアルという資料をお配り頂いていると思うんですが、首都圏における食をテーマにした、県の情報発信拠点ということで、7月に、運営事業者は同じなんですが、経営者が飲食店に精通された方に代わりまして、全面リニューアルを実施しております。その中では、裏面のところを見て頂きますと、お食事等、ディナー等につきましても、利用しやすい価格帯、2枚目の後ろのところ、飲み放題付きコース4000円、5000円、6000円というようなコースを設けるなど、気軽に皆さんに利用して頂けるような施設にリニューアルをしているところがございます。落ち着いて徳島の食を堪能できるというような施設になっておりますので、是非とも、今後とも東京にお立ち寄りの際は、日曜日はお休みでございますが、それ以外であれば大丈夫と思いますので、ご利用頂けたらと考えております。

もう一点、2台のPR車両につきましてご質問いただいております。このPR車両につきましては、「新鮮なっ！とくしま号」と「でり・ばりキッチン阿波ふうど号」という2台のPR車両がございまして、昨年度の実績で申し上げますと、「新鮮なっ！とくしま号」が、非常に大型のトラックということで、18回出動いたしまして、そのうちの10回が県外で出動しております。「阿波ふうど号」は、中型のトラックで、いろいろな調理機材を積んでおりまして、そこで調理ができるというものなんですが、平成30年度は37回出動しておりまして、そのうち20回が県外となっております。県外ですと、例えば名古屋市場での春にんじんフェアでありますとか、東急百貨店、ターンテーブルのお膝元ということで、渋谷の東急百貨店の前での、東急百貨店の春にんじんとかすだちとか椎茸とかなると金時、大根フェアといったときに出勤して、実際に試食をしていただいたり、また関西市場ですと、市場に直接出向きまして、そこでPRをさせていただいたりということで、県内県外問わず出動しているという状況でございます。

（委員）

事前にここでやりますという周知をするのでしょうか。

（もうかるブランド推進課）

当然、PRということですので、こういうフェアをやりますとか、そういうことで周知をさせて頂いてるいうところでございます。お配りしております、今日の計画レポート概要版の方の3ページの一番下「とくしま食育フェスタ」とか、これは「新鮮なっ！とくしま号」が出動して、舞台になりますのでここで色々とお話をいただいたり、県産品のPRをしていただいたりしております。

（会長）

すいません、ターンテーブルで、先ほど、日曜日は早く閉まるとかいう話だったのでしょうか。

（もうかるブランド推進課）

日曜日はレストランを営業していないというところでございます。その他の日はすべて営業しておりますのでよろしくお願いいたします。

（会長）

飲み放題で4000円から、という非常に魅力的な東京での値段になっておりましたので、ちょっとお聞きした次第です。

1から5の基本戦略についてのご意見、ご提言をいただきまして回答いただいたんですが、少しだけ時間の余裕がありますが、この機会にご意見がございましたらお願いしたいと思いますが。

（委員）

基本戦略2の「食育・地産地消の推進」というところで、以前、地産地消の店というので緑の旗がお店にかかっているのをたまに見かけたんですけど、最近あまり見かけないんですけども、引き続きそういう活動はされているのでしょうか。それと、そういう店が増えるような推進というのはされているのでしょうか。

（委員）

基本条例のパンフレットの中からお聞きします。一番最後のページに、「こうすれば食料自給率を1%向上させることができる」というのがありますが、「ごはんを一食につきもう一口食べる」というのはわかります。でも「国産小麦100%使用のうどんを月にもう3杯食べる」、「国産大豆100%使用の豆腐を月にもう3丁食べる」と、この国産小麦100%と国産大豆100%というのは見たことがないんですけど、これは私たちがすぐ買えるところにあるのでしょうか。お豆腐なんかは大概の場合が遺伝子組み換えじゃない

ということは書いていても国産と書いてないんですね。ほとんど、カナダとか、アメリカとか向こうの契約農家を作っていると聞いているんですが。国産のものが食べたいんですけどどこに売っているんでしょうか。

（会長）

ありがとうございます。他にございますか。

（委員）

実は、弊社の方で取り扱わせて頂いておりますので、国産の大豆100%の、ちょっとお高いと、お値段も168円とはるんですけども、ございますので、またご機会ありましたら、弊社でよろしければご購入いただけたらと思います。どうぞよろしく願いいたします。また、うどんの方も、ちょっとお値段が高くなるんですけども、香川の商品がございまして、ぜひ。弊社の商品をお勧めするのが心苦しいんですけども、ニッチな商品を取り扱っておりますので、確かに委員がおっしゃる通り売れませんが、売れないんですけども、こっそり置いておりますので、なかなか目につかないと思います。ですから私ども、販売業の方も力を入れて、そういったものが、国産のものが皆さんの目に届くように頑張ってお届けいたしますので、どうぞよろしく願いいたします。

（委員）

ちなみに、大豆はどこで作っているんでしょうか。

（委員）

とよまさりですね、北海道だったと思います。ただ、詳しいことは、ちょっと営業から離れておりますので、それが変わっていたら大変申し訳ございません。

（会長）

県の方からも何か、回答がございましたら。地産地消もありましたけども。

（もうかるブランド推進課）

地産地消につきまして、ご質問をいただいております。現在、地産地消協力店ということで登録させていただいて、いろいろなのぼりでありますとか、そういうものをお配りさせていただいております。昨年度は、地産地消協力店ということで、平成30年度に25店舗が新たに加わって、飲食店、弁当、惣菜店、それから販売店、いろいろところで地産地消協力店という登録をさせていただいているという状況でございます。以上でございます。

（会長）

ありがとうございます。お時間の方は、だいたい予定の時間になりましたけども、

最後にどうしても今言っておかないとというご意見等がございましたら。

（委員）

どうしてもというわけではないんですが、せつかくなので。数値目標を見てて気になったのが、阿波とん豚の出荷が、目標値にむしろ遠ざかっているような現状があるかと思うんですけど。実際畜産の中でも、豚は、阿波ポークは生産をやめて、阿波とん豚にかけるっていう事だったと思うんですが、なかなか多産体制が難しいのか、あるいは養豚農家が減少して、もう産業としても風前の灯になっているのか。畜産に力を入れてきた歴史のある県なので、また立て直しをぜひ図ってほしいなという要望です。それと、あきさかりも特Aになって、徳島初の特Aの米として大いに期待されていると思うんですが、継続してこそその評価だと思うので。今年の作付面積とかも増えたものだと思います。実際にそれが継続して農家の収入につながってこそだと思うので、それもぜひ万全の取り組みをしてほしいなと思います。そして一点、質問させてください。新規就農者を支援する、次世代育成の、国の交付金があったかと思うんですが、事業が前年度からずいぶん予算が減らされて、経営開始型の方の影響が全国で多々出ていると聞いたことがあります。実際、次世代育成、担い手育成ということで、今大事な、これまでこの数年間農業の育成政策として支えてきた柱の一つだったと思うんですが、徳島はこの事業の減額の影響は出ていないですかね。それを聞かせてください。

（農林水産総合技術支援センター経営推進課）

農業次世代人材投資事業の国の予算が今年度大幅に減っておりまして、各県とも農業者への助成については見直しが求められています。継続での支援は、支援が本当に必要な対象者にはしっかり支援を引き続いて行う。新規の方についても、計画がしっかりしていて将来就農が見込まれる方については、今年度、調整しまして、配分をさせていただいたところでございます。

（委員）

確か5年いただける制度だったと思いますけど、もらえなくなった人もいるということですか。

（農林水産総合技術支援センター経営推進課）

今回は、できるだけそういった国の予算で就農の支援が滞ることがないように、継続の方については今年度しっかりと対応を行っているところでございます。

（委員）

これを当て込んで農業を始められた方もいらっしゃると思うので、継続の方はもちろん、国が減らした理由も照らし合わせながらになると思うんですが、しっかり支援していただきたいのと同時に、もし本当に必要なのであれば、県あるいは市町村と

いう独自の枠で支えてあげることも必要なのかなと思っています。最初に、担い手のところで、漁業の話になってしまいますが、漁業アカデミーは今年度3人の受講だったと聞いています。今、本当に人材が他産業との奪い合いに、いろいろなところが人手不足という状況の中で奪い合いにもなってると思うんで、言葉が悪いかもしれませんが、そんな中で、出口も含めてきちっと支えてあげることが、徳島の農林水産業の今後につながると思うので、今日はこれを一番言いたいなと思って来ました。

（会長）

ありがとうございました。それでは時間が参りましたのでこれで意見交換を終了したいと思います。事務局におかれましては、本日いただいたご意見、ご提言を十分に踏まえ、今後の農林水産関連施策の検討を行ってください。

### 3 「徳島県経済グローバル化対応基本方針」について

事務局から資料5により策定の報告がなされた。

### 4 その他（事務局説明）

事務局から次のとおり説明がなされた。

- ・ 議事概要の公表は、事務局で取りまとめた上、発言された委員に確認いただいてから、発言者名を伏せた形で、公表したい。
- ・ 資料4（基本計画レポート）については、9月県議会で報告する予定。
- ・ 次回の開催は、年内中に開催を予定しており、会長と相談の上、連絡させていただく。